

# サロン 登美ヶ丘茶論(19)

2021年7月



絶対に民主主義ではない五輪

お・も・て・な・し・や・つ・て・き・た・の・は・金・と・欲

大金も命も賭けてする五輪

ガースーさん煽(おだ)てて稼ぐハッパさん

世界からコロナの株をお持ち寄り

## ◆ 本当に恐ろしい LAWS

Lethal Autonomous Weapon System (自律致死兵器システム) が、昨年春、内戦下のリビアで実戦に使用されたとみられることが、国連安全保障理事会の専門家パネルの報告書で6月22日わかった。との報道(23日毎日新聞ほか)。

恐ろしいことだ。6月26日毎日紙夕刊は、米製戦闘機F35は1機1億ドル前後だが、米製最新型無人機は推定2000万ドルと安価で、貧しい国・武装テロ集団でも買えるようになり、米軍が圧倒的な制空権を握るのが難しくなった。と報道していたが、私はすこし観点がずれているのではないか、と思った(23日付同紙は、AI兵器に詳しい某大学の某教授の談話「…一線を越えたといえる」を伝えている)。

LAWSの恐ろしさはそんなところにはない。現在まで使用されていた無人機MQ9(あれ、なんか愛嬌のある形で子ども用ゴム動力模型機にできそう)は、未だ人がコントロールしなければならない、操作者はワシントンDCのペンタゴン内の空調の効いた快適なオフィスで画面を見ながらゲーム感覚で操作していて、人を殺す罪悪感をほとんど感じずに殺人しているのだろうが、それでも時には「おれはこうして人を殺しているのだな」と、ふと罪悪感におそわれるかもしれない。だが、LAWSとなると、画面を見て操作しなくても、ただそれを地域・戦域に投入すれば、それが自律的に敵とみなすものを殺戮するのだから、戦域への投入を命じる大統領や将軍にしても、投入命令を受けてそれを実行する部下にしても罪悪感など感じないだろう。私が恐ろしいと思うのはそこだ。

いま話題になっているLAWSは航空機型だが、地上投入のロボット・アンドロイド型・戦車型も水中投入の潜水艦型も開発済みだ。これらはいずれも、一度投入すると人が操作しなくてもAIが敵とみなしたものを破壊し続けるのだから、投入者は何の良心のとがめも罪悪感も感じないのだ。平和時に人を殺した場合の犯人の事後の罪悪感の有無・度合いが死刑になるか否かの判決に影響するようだが…(Mytさん)



### 「毎日」のコラム「近事片々」から

東京、きのこの感染者数\*1308人。五輪開幕1週間後に控え、コロナ禍は「アンダーコントロール」に遠く。(五輪23日開幕)  
そして、「それでも開催する意義は何か」という問いかけが残った。東京五輪1都3県でやっと無観客開催に。  
失言ではなく、政府の方針だったのでは？  
西村コロナ対策担当相の「酒出す飲食店との取引停止」求めた発言。  
・営業時間に以前はもっと慎重だったのでは。飲食店の酒提供を巡る政府の対応。「圧力」は反発を呼ぶだけで。  
・首相も知っていたのなら、そりゃ政府方針なんでしょう。酒提供する飲食店との取引停止求める国の要請、撤回。  
・その要請を通過した国税庁で、職員が飲み会開き集団感染。開いた口がふさがらぬ。  
・「怒り心頭」では。全国知事会、ワクチン不足巡り「ハシゴ外され混乱」と緊急提言。ハッパかけた政府を批判。  
・片や国は、自治体にワクチンの「在庫」あると主張。本当にあるのか。  
・民主主義への司法からの一石。「不自由展」の大阪会場利用拒否に「表現の自由の不当な制限」と地裁決定。(Mytさんスクラップより)

(\*17日東京の感染者1410人)

全国の祭りは中止でも五輪

## ◆「表現の不自由展」の妨害勢力＝歴史の偽造者＝「維新」！

旧日本軍「慰安婦」をモデルにした「平和の少女像」等を展示した「あいちトリエンナーレ 2019」（8月妨害され一旦中止後10月再開）の企画展「表現の不自由展・その後」を許可した愛知県大村秀章知事に対するリコール（解職請求）署名43万人分のうち8割強を偽造するという、耳を疑う怪事件が発覚したのは本年初めだった。偽造署名運動の旗振り役である名古屋河村市長や高須クリニック院長は深く関与したにもかかわらず未だに頬被り、知らぬ存ぜぬを通している。高須氏語録「偉大なナチス」「南京もアウシュビッツも捏造」、河村氏語録「南京大虐殺はなかった」－彼らこそ捏造を裏業にしているのか！実行部隊は、逮捕された偽造署名運動の事務局長田中孝博氏（日本維新の会愛知5区支部長・予定候補）。その命を受けた山田愛知県常滑市議も元維新の会。田中氏は事件について「高須さんも知っている」と恨み節を漏らしたものだ。同じ筆跡の署名や8千人もの「死せる魂」の署名まである詐欺師顔負けの悪行と彼らの逮捕劇の顛末を聞いたのはつい最近であった。

ところで、上記の愛知の企画展に「その後」が付いているのは、各地で中止に追い込まれた作品を集めて東京で開催された企画展「表現の不自由展～消されたものたち」（2015年1-2月）の続編であったからだ。本年6月に東京で上の愛知の企画展「その後」の再開を予定したが、またもや妨害に遭って延期。続いて先ごろ7月6-11日まで名古屋市で上記の「表現の不自由展・その後」の一部作品を展示した企画展が開幕したが、8日企画展会場宛てに送られた郵便物が爆発。市は同展の開催期間最終日の11日まで臨時休館としたため、結局閉幕を余儀なくされてしまった。施設の同じフロアでは、同展反対の政治団体関係者らによる『あいちトリカエナハーレ 2021』というふざけた名前の美術展が9日から開催予定だったという（毎日7/9付）。彼らのやり方の下品さは天下一品だ！



さて、舞台は大阪に移る。「表現の不自由展かんさい」が、愛知の2019年の展示作品を揃えて7月16-18日大阪府立労働センター（エル・おおさか）で開催予定であったが、脅迫電話や街宣車抗議活動が相次いだとして施設指定管理者は「安全の確保」を口実に6/25付で施設利用承認を取り消した。企画展実行委員会側は、「表現の自由を保障した憲法21条に反する」として大阪地裁に提訴。9日地裁は、「正当な理由がない拒否は憲法の保障する表現の自由の不当な制限につながる」と裁定し、施設側の中止処分を執行停止とした。施設側は大阪高裁に即時抗告した。むき出しの憎悪を感じる！

その後の経過：13日施設側に対して、封書で「断固として実力阻止に向かう」、「不測の事態が生じることを警告する」、「実力阻止とは会場施設の破壊や人的攻撃を含む」とする脅迫文が送り付けられた。府南部の郵便局の12日付消印が押されていたという（毎日14日付夕刊）。→15日大阪高裁は即時抗告を棄却、施設利用を認める決定 → 再度、施設側特別抗告 → 最高裁、特別抗告を棄却 → 16-18日「表現の不自由展かんさい」が無事開催された。

この間、維新の吉村大阪府知事は、施設の使用予約取り消しを「裁量の範囲内」と支持し、地裁の決定に公然と「不服」を表明。質問する記者の新聞社名を挙げて、「sonだけ『表現の不自由展』を推すんだったら、会社の会議室を使わせてあげたらどうなんですか、応援してるんだったら」（9日）、と本音をまくし立てたという。5月国会質問で「従軍慰安婦」という教科書記述に噛みついた維新馬場幹事長ですが、法務省自身が軍の慰安婦制度を認める文書の存在が先ごろ明らかになった。これらは全て日本の侵略戦争を美化・正当化する歴史偽造勢力のリンクした動きです。（Jirkさん）

「茶論」への御投稿をお待ちしています。どんな話題でも結構です。気軽に御投稿ください。掲載時、投稿者は匿名扱いとします。原稿は以下の世話人ポストへ放り込んでください：石田(松陽台 2-16-4 ☎46-0352)、赤沢(鳥見 2-5-1)、秋山(東登美 4-22-19)、藤田(西登美 4-17-4)、堀江(西登美 1-20-7)、宮田(鶴舞西 2-10-C505)、初谷(中登美 4-1 ローレル I -7-204)、森本(西登美 1-22-21)

登美ヶ丘九条の会

